

- 1 . フィランソロピーによる第2の動脈は、
いわば、市民一人ひとりが自らの選択により行う、社会課題解決に向けた投資
 - ・世界の個人寄附額は年間30兆円を超える規模
(アメリカ 約27.3兆円、イギリス 約1.8兆円、日本 約7,400億円)
 - ・日本でもクラウドファンディング市場が拡大(2015年 約350億円 2016年 約480億円)



世界から第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を民都・大阪に取り込むことが、
大阪の非営利セクターだけでなく、大阪経済を活性化につながる

- 2 . そのためには、
まず、「大阪のフィランソロピーが変わる」ことの実体をつくること
それを世界に対し「フィランソロピー国際拠点都市・大阪」としてみせる
そうした動きをインパクトとして、フィランソロピーの流れを大阪に呼び込む

3 . 実現に向けた3つのアクション

(1)大阪のフィランソロピーが変わるアクション 新たな組織体制の設置

・フィランソロピー会議にとどまらない民主導の持続可能な組織

(大阪の非営利セクターの資源の結集・活用や、休眠預金活用法の活用・分配拠点も視野に)

・公益庁の創設や内閣府公益認定等委員会の移転、世界への発信等を検討する府・市の組織

(2)世界に大阪をみせるためのアクション 民都・大阪が「フィランソロピー都市宣言」

(3)大阪に呼び込むためのアクション 大阪に拠点等を誘致

非営利組織のアジア・太平洋拠点誘致や、「フィランソロピー版ダボス会議」の大阪開催など

新たな産業や市場が生まれるイノベーション

法人の設立・運営のコーディネイトや、評価・チェックする機関、

世界のフィランソロピーと日本の非営利セクターをつなげる動きなど

大阪のアクションが世界にインパクトを与え、第2の動脈を大阪に集める
非営利セクターの発展が新たなイノベーションを起こし大阪の経済も活性化

4 . 2025 日本万国博覧会とフィランソロピー

これまでも、数多くの非営利セクターが参画し、万博をけん引

1970年大阪万博：生活産業館((財)万国博共同出資協会)、ガス・パビリオン((社)日本瓦斯協会) 等
2005年愛知万博：世界のNGO/NPOが集う「市民パビリオン」、ワンダ-ホール展・覧・車((社)日本自動車工業会)等
2010年上海万博：国際赤十字や世界水会議などの国際機関が出展

フィランソロピー活性化に向けたアクションの中で、
「2025年 日本万国博覧会」に向けた、非営利セクターのアイデア導入や参画などを図り、
大阪から世界に向けたフィランソロピーの発信につなげる



万博開催後（2025年以降）は、「万博のレガシーをつなぎ・活かし・広げる」
大阪が民主導でフィランソロピー活性化に向けた組織を立ち上げることで、
休眠預金のみならず、万博のレガシーを引き継ぎ、広げる組織にもつながる

1990年 花博では、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会が基本理念を継承・発展
2005年 愛知万博では、(一財)地球産業文化研究所が愛・地球博理念継承発展事業を継承

5 . IRとフィランソロピー

IR（統合型リゾート）により、民間公益活動の増進を行うのは世界では一般的

（事例）

ラスベガス：地域コミュニティに寄附するためのファンド設立や、教育支援団体への寄附

マカオ：奨学金の提供や、文化・スポーツイベントに対する補助、各種社会団体に対する寄附

シンガポール：教育機関に対する寄附、子ども支援のチャリティ・プログラムを実施

日本の事例

totoスポーツ振興くじ：日本スポーツ振興センターによるスポーツ振興事業など、

ジャンボ宝くじ等：日本宝くじ協会による社会貢献広報事業など、

競馬：JRAによる取組みや、馬主により設立された法人による社会貢献事業など、

競艇：日本財団による活動など、競輪：車両競技公益資金記念財団による助成事業など



フィランソロピー（社会課題の解決に向けた投資）と親和性がある

IRによる地域貢献・社会貢献と、大阪におけるフィランソロピー活性化の動きとをうまく連動させることで、大阪が日本のフィランソロピーの中心都市として、世界に発信



万博・IRと世界の注目を集めるこの機をとらえ、大阪のフィランソロピーを世界に発信
世界に更なるインパクトを与え、より大きな相乗効果につなげる